

「技能五輪全国大会優勝者の訓練状況調査」から

データから見る、技能五輪全国大会

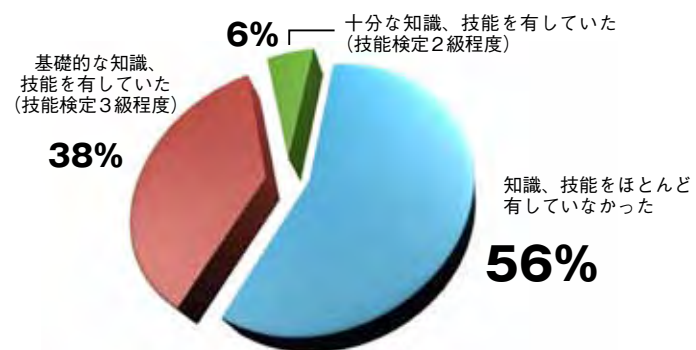
技能五輪全国大会等の技能競技大会は、大会に向けた訓練による技能の向上など、技能者の育成において重要な役割を担っております。近年、本競技大会に新規に参加する企業等から優秀な成績を収めている企業等の訓練状況について多くの問い合わせが寄せられています。また、優秀な成績の選手の訓練状況は多くの企業にとって、今後の訓練等において非常に参考になる重要な情報です。

このため、中央職業能力開発協会では平成24年度の技能五輪全国大会優勝選手の企業等に対して「技能五輪全国大会優勝者の訓練状況調査」を実施しました。以下、そのトピックスを紹介します。

※調査の詳しい結果は、中央職業能力開発協会のホームページからダウンロードできます。

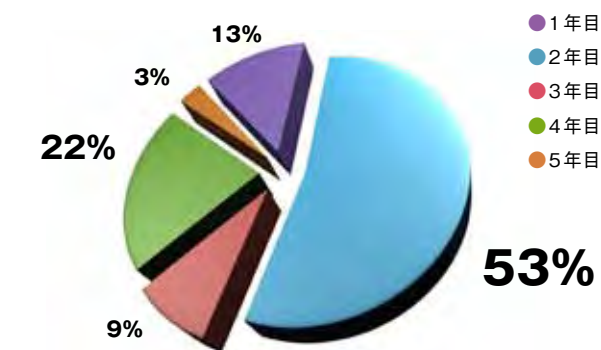
HOME > ものづくり基盤強化 > 技能五輪全国大会 > 過去の大会記録 > 第50回優勝者の訓練状況調査について

Q 所属の企業、学校の入社・入学時における参加職種に関わる知識・技能の有無



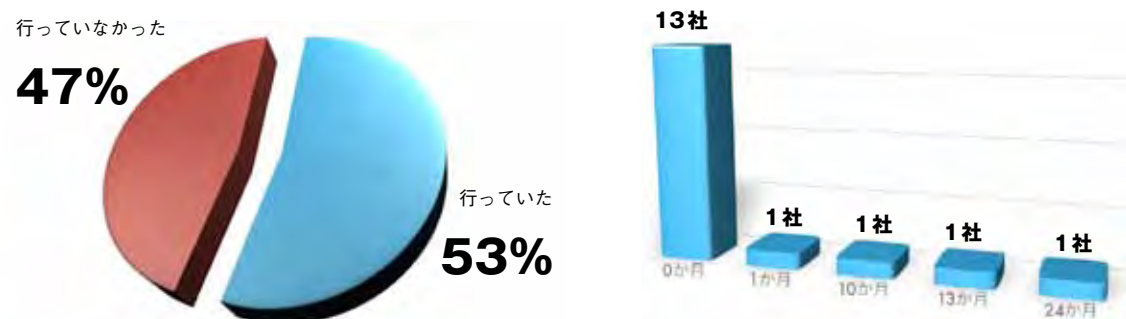
「知識、技能をほとんど有していなかった」の回答が過半数（56%）を占め、次いで「基礎的な知識、技能を有していた」が3割強（38%）となっている。技能五輪で通用する技能の習得は、入社・入学してからが大半であることがわかる。

Q 優勝選手は所属の企業、学校に入社・入学して何年目か



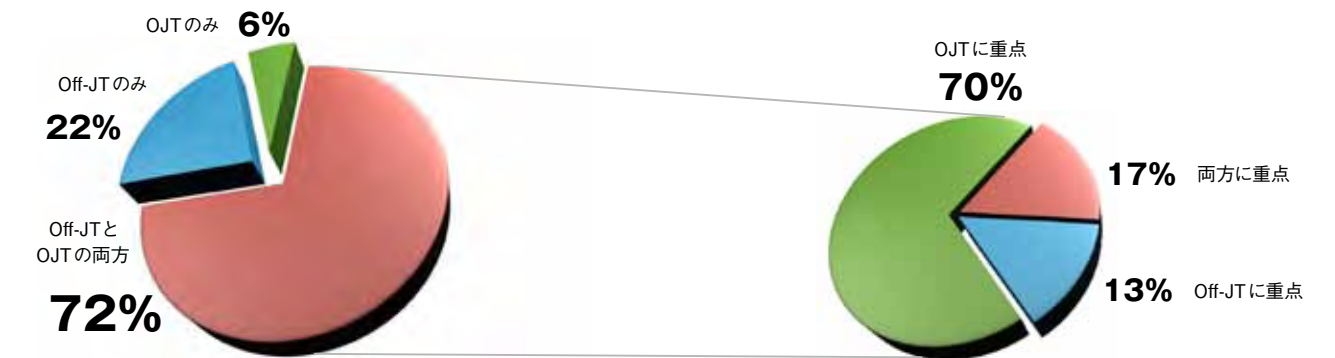
優勝選手の53%が「2年目」という回答は注目に値する。つまり、1回目もしくは2回目の技能五輪挑戦で、半数が金賞を獲得していることになる。次いで多いのが「4年目」（22%）で、これは十分な訓練の積み重ねの成果であると言える。

Q 技能五輪全国大会以前における参加職種に関わる基礎的訓練の有無及び基礎的訓練の開始時期



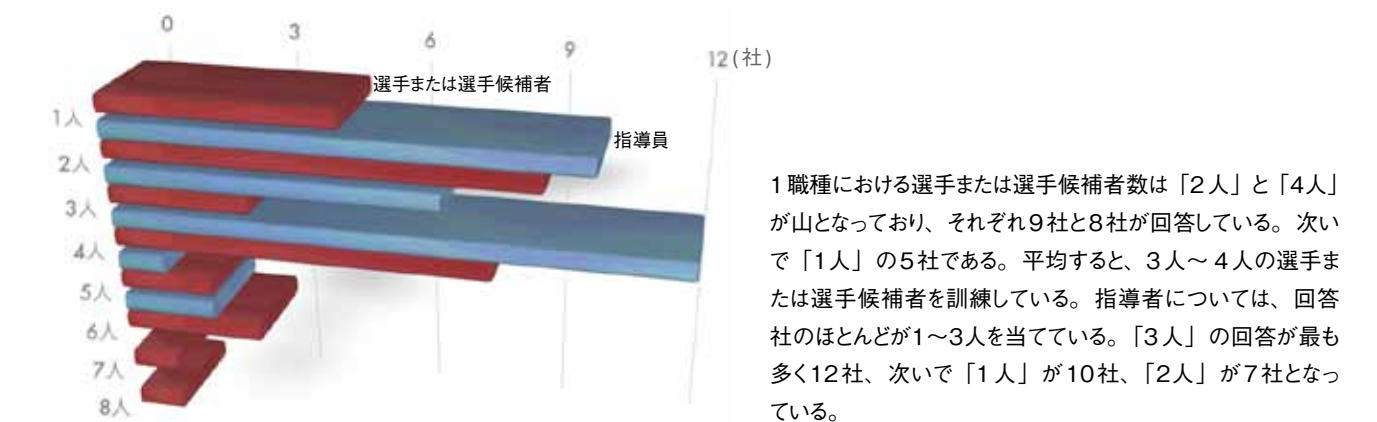
優勝選手について、選手に選ばれる以前または「全国大会に向けた職業訓練」開始以前に、参加職種にかかわる基礎的訓練を行ったかについて聞いたものだが、「行った」53%、「行っていない」47%となっており、大きな差は出ていない。これは、「入社早々に基礎訓練を始めている」「入社早々に五輪選手選手が選考され、そのまま五輪に向けた訓練に入っている」という理由が推測される。「基礎的訓練を行った」における訓練の開始時期は、76%超が「0か月」と回答している。

Q 技能五輪全国大会を目指した訓練の種類について



「Off-JTとOJTの両方」行っている回答者が72%、「Off-JTのみ」が22%、「OJTのみ」が6%でる。「Off-JTとOJTの両方」の内訳を見ると、「OJTに重点」の回答が70%と大多数であり、次いで「両方に重点」（17%）の方が「Off-JTに重点」（13%）よりも少し多くなっている。

Q 優勝した職種に対して訓練を行っていた選手又は選手候補者は何人か。また、当該選手の訓練を行っていた指導員は何人か



1職種における選手または選手候補者数は「2人」と「4人」が山となっており、それぞれ9社と8社が回答している。次いで「1人」の5社である。平均すると、3人～4人の選手または選手候補者を訓練している。指導者については、回答社のほとんどが1～3人を当てている。「3人」の回答が最も多く12社、次いで「1人」が10社、「2人」が7社となっている。

Q 技能五輪全国大会を目指した訓練を開始してから費やした時間等

●訓練を開始してから大会までの平均期間

約10.6ヵ月

●訓練の平均時間数

約1528.4時間

●座学による訓練の平均時間

約65.1時間

調査概要

調査実施：平成24年11月
調査主体：中央職業能力開発協会 技能振興部
調査対象：第50回技能五輪全国大会優勝選手の所属する企業等（40職種）

回答数：32職種

(回答職種数の内訳)

- ・電子技術系4職種のうち、4職種
- ・情報通信系3職種のうち、3職種
- ・機械系8職種のうち、8職種
- ・金属系5職種のうち、5職種
- ・建設・建築系9職種のうち、6職種
- ・サービス・ファッション系11職種のうち、6職種